



2017年6月
第67号

☎ 111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス
神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院
発行人 本間義信
編集人 文カンホ、後藤貴子
印刷所 ヨベル

福音宣教に仕える神のしもべ

野田キリストめぐみ教会牧師 川崎 豊



「神学院生とは……」

1・10)を忘れないでほしいと語られた。

故黒木安信学院長はあるオリエンテーションで学生たちに神学院が目指す伝道者はこのことを心に留めてほしいと言われた。「神の言葉に日々養われつつ、キリストにある健全な全人的霊性を持って御霊に満ち、福音宣教と救霊に仕えていく神の僕」であってほしいと。

そして神学生とは(1)キリストにあつて神に召されたもの(ローマ1:1)(2)それは取り消されな
いもの(ローマ11:29)(3)日々確かなものとされること(IIペトロ

特に(3)日々確かなものとされることと述べた後、IIペトロ1章10節を引用している。そこには選ばれている自分であることを確かなものとするために、いっそう努めなさい。そうしなければ罪に陥り、神の召しを全うすることとは出来ない」と警告している。

「キリスト者とは……」

お互いキリスト者は日々聖書を読み、祈り奉仕に生きる者である。しかし気をつけな

れらはやがて習慣化されていく。習慣化はやがて形骸化を招く。形骸化は献身者や伝道者にとって恐ろしい誘惑と罪に陥らせる。誘惑や罪に陥っているという事実に気づかないことがある。お互いのデポジションは形骸化していないか。義務感ではないか。

ウェスレーは信仰者が信仰の形骸化に陥らないために日々恵みに成長することが大切であると説いた。そのためには「敬虔の業」に生きるべきであると述べている。即ち、(1)祈り、(2)聖書の探求(御言葉と自分の心と生活を吟味する)、(3)聖餐式に参加する、(4)断食する、(5)組会等の諸集會に励んで出ること、(6)病める者を訪問、慈善活動、刑務所への牧会をも加えるべきであると述べている。敬虔の業と慈愛の

業の必要性はウェスレアン・ホーリネス教団が掲げたミッション・ステートメントの精神に一致するものである。

ポーロ・リース師は言っている。「キリスト者にとって宣教は本業であり、天職であり、職場は副業である」と。私たちが取り巻く社会は競争社会であり、忙しすぎて過労死のニュースが報道されるほどである。礼拝する時間、教会で奉仕する時間、自宅で家庭集會を開く時間、日曜日を主の日として聖別する時間も取りにくい時代に置かれている。しかし伝道や教会の宣教の業に参与できないほど忙しいことは良いことであろうか。「……職場は副業である」の重い言葉に私たちは対峙しなければならぬ。

ポーロ・リースはさらに言っている。「教会は出席したくてもできない人によって、弱くなり、やせ衰えて行くのではありません。却って出席できるのに出席しない人によって、弱くなり、やせ衰えて行くのです」と。私たちはキリストの贖いに

よって買い取られた者。買い取られた私たちは神のものである。神と共に働く者として生きるように召された者であることを忘れてはならない。夏を前にして福音の種蒔きに加わろう。

◆卒業生の証し◆

「神学院での学びと訓練を終えて、新しい任地に向かって」

土屋 宙靖



神様の恵みと憐れみにより、神学院での4

年間の学びと訓練が守られました。わたしの出身教会として祈り、格別なご支援をくださった浅草橋教会の皆様、そして聖日派遣として受け入れてくださった教会の皆様、夏の派遣でお世話になった教会の皆様、後援会の皆様、神学院の先生方、寝食を共にした学生たち、その他にも祈り支えてくださった多くの方々、本当にありがとうございました。



ました。

在学中に、前学院院长であり恩師である黒木安信先生が天に召され、深い悲しみの時も迎えました。入学時に戴いた黒木先生が書かれた伝道者養成の冊子を読み、卒業して改めて黒木先生の教えを振り返る時を持ちました。黒木先生は、マルコ10章45節で主が言われたように、人との関係において具体的に仕え、服従していく事を大切にされました。それは主の教会と信徒に仕えていく伝道者養成、キリストが実践された弟子道でした。

1年目は「無条件の服従」、納得できないことにも従えるかどうかという訓練となり、2年目は「服従の動機が聖いか」が問われます。3年目は「自由な服従」、人の評価や批判から自由かどうか問われ、そして最終学年は「人ではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい」(エフェソ6.7)とあるように「喜びの服従」が試されます。青山学院大学神学科同窓会『キリスト教論集』第56号 黒木安信著「ウェスレアン・ホーリネス神学院から」PI20

参照。

わたしの4年間の寮生活は、学生達との関係の中で葛藤の日々でした。愛のない自分、汚れた自分の心を見せつけられました。何度となく「○○せねばならない」という感情は、何度も何度も打ち砕かれました。人間は一人一人が違い、正論で押し進める事の愚かさを学び、特に「人の怒りは神の義を表現しないからです。」(ヤコブ1.20)の御言葉が深く刻まれました。また人の評価や批判を気にしてしまう

弱い自分との戦いが続き、今も激しく戦っています。聖潔の生涯の深さを何度も示され、主イエス・キリストに似たものにされていく神のご計画に従って歩ませていただきたいと願っています。

未熟な自分ではありますが、わずか2か月間、出身教会の浅草橋教会に仕える事を許していただけた事は、大きな喜びであり感謝でした。熱い励ましをいただき、これから自分にとって未だ見ぬ地である兵庫県淡路島にある宇山福音教会に遣わされてまいります。主任牧師に仕え、教会の皆さんに仕えて、お互いに良き信頼関係を築いていけるようにと願っています。神の許しの下、ウェスレアン・ホーリネス教団の教師として立たせていただきましたので、良き証しを立てられるように歩ませていただきたいと切に願います。心と体に気を配りながら、主の御手に支えられて、主任牧師と共に伝道牧会の道を歩ませていただきたいと思います。お祈りとお支えを今後ともよろしくお願います。

「どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてください。」（一テサロニケ5・23・24）

「神学院で学び終えて、
新しい出発に向かって」

上大岡キリスト教会

丸山順子



神学院
での4年
間を終え
て思うこ
とは多く
の人の支えがあったから終えるこ
とが出来たということ。授
業を教えて下さった先生方は教
会の牧会の働きをされながらで
あったり、他の働きをされなが
らであったり、そのような中で

私達学生の為に時間を割いて神学院まで来て下さいました。私達学生は寮住まいなので登校時間1分程度ですが、先生方は電車に乗ったり、階段を昇ったり、大変な思いをしながら教えるに来て下さいました。時には学生に紹介する本を遙々運んで下さったりもしました。感激です。授業内容そのものからも多く教えられました。授業とはあまり関係の無い先生方の発言や証、その生き様みたいなものが授業と同じく、それ以上かも知れません。私が記憶に残り今の私の参考資料のようになっていきます。神学院で事務の労を執って下さった方々や背後で祈り支えて下さっていた方々、食べ物を送って下さったり、作って下さったり、運んで下さったり……そのような多くの方々様々な形の支えがあつて年間を守られ過ごすことが出来ましたことは感謝です。

会ですが、既にこの2年間の中で為されてきた働きの実を見るからです。教会学校に続けて来ているお友達は歌集だけでなく教会学校用のカバンまで既に持っている、それは前任奉仕者が用意してくれたということでした。手はずは済んだ、教会に行くか行かないか、後はあなたの気持ち次第ですよ、というその奉仕の心が伝わってくるようでした。現在教会に集っている方々は前任奉仕者への信頼も篤く良き関係が持たれ、良き証が為されていたということを思います。

分を建てあげる一部分を担っているのだということが分かります。そして私も多くの方々を支えられ助けられながら教会の一部を担わせてもらっているのだと思つていきます。神様は出来ないことではなく出来ることを任せられます。人の力量に相応しく仕事を与えられます。日々のゴミ出しを与え給う恵みの御神は誉むべきかな。めぐみ保育園と一体であるこの教会は平日も常に人の動きがあります。園児達の元気な泣き声が聞こえます。おむつが毎日出ます。だから燃えるゴミの日は重要な日ですがこれは私の奉仕の1つです。平日の朝の30分、ゴミを出したり、掃除をしたりして、開園前に一番の保育士さんと短いお祈りの時を持てることは感謝です。保育園と一体の教会の為に日々保育園との関わりがあつて私も毎日何かしら関わりがあります。主の目の前にある私の歩みである事を思い、忠実な歩みが出るように願います。

私の上大岡キリスト教会派遣は6月までですが、7月から派

遣になる九十九里みぎわ教会に
今は月1主日位行きながらの生
活がようやく慣れてきたように
思います。

上大岡キリスト教会に7月か
ら専任牧師として来られる山口
いずみ先生を待ち望みつつ。

◆新入生の証し◆

神学院入学に導かれて

神学科一年 柳 泰 鉉



私が初

めて教会
に行つた
のは山形
短期大学
で勉強した時です。韓国人たち
が集まる教会で、牧師先生も韓
国人でしたが、いろいろな問題
がありました。やがて私の家族
はその教会に行くのをやめて、
母は家の前に小さい教会を建
てました。その後、何回も牧師
先生が代わりました。新しい牧
師先生が来る度に、私は今まで
の傷付いた心を癒してもらいた
かったのですが、毎回失望ばか



りでした。牧師と教会への不信
感はだんだん深まりました。そ
のように信仰も失いつつあるの
に、母は私に神学校に行つて欲
しいとよく言いました。私はと
んでもないことだと思ひ、母に
大声で怒りました。母や茨城に
おられる宣教師先生、また韓国
にいる母の友達も、私のことで
お祈りすると、私が献身して牧
師になる答えを受けたと言っ
ていました。その時は、これは偽
りであつて真実ではないのだと
信じませんでした。これほどま
でに信仰のない私に、神様がそ

のようなことをお許しになるは
ずがないと思つたからです。

「死んでも神学校には行かな
い」と言つた私でしたが、昨年
箱根ケズイックに参加すること
になりました。日本語でメッセー
ジを聞くのは初めてでしたので
通訳機ですべてのメッセージを
聞きましたが、大変疲れました。
2日目の午後の集会で私は「早
く帰りたい」と考えながらメッ
セージを聞いていました。正直
に言つてメッセージの内容は耳
に入りませんでした。その時
急に目の前が暗くなって子ども
の時の記憶が浮かび始めました。
まるで映画のように見えました。
それは今まで忘れていた、また忘
れたかつた子どもの時の記憶でし
た。最後には多くの人達の前で説
教をしている自分の姿が見えまし
た。その後不思議なことに、心が
平安になり、嬉しさを感じました。
説明の出来ない、初めて感じる気
分でした。その夜の集会で献身す
ることを決めました。

その後、韓国の神学校に行こ
うと思いましたが、結局神様の
導きに従つてウェスレアン・ホー

リネス神学院に入学することに
なりました。私はまだはつきり
分からないのですが、すべてを
主に捧げて全く従うこの体験も、
聖書で言われている聖潔ではな
いかと思ひました。なぜなら、
その体験後、私の人生は完全に変
わつたからです。また、聖書を読
んでいて、私には出来ないことも
神様なら何でもできる、というこ
とを自覚するようになりました。
私は未熟な者ですが、これから神
様がなさることを信じて、従つて
行きたいと思ひます。

神様に支えられて

神学科一年 桑原 晴美



背後の
お祈りに
守られ支
えられて
2 か月が

過ぎた事を感謝しています。
20年程前にエホバの証人の学
びをしていた中、その間違いに
気づき、本物の福音により救わ
れ、その時から伝道に対する強
い思いと、どんな小さな事でも

いいから神様に用いられたらいいという願いがありました。しかし、心は燃えていても私の伝道はあまりにも拙く、もつと学びたい、訓練を受けたいという思いがありました。牧師先生に面接していただくと思った時に、初めて私の心に恐れが生まれました。その時に、歴代誌二28章10節の「勇気を出して実行しなさい」(新改訳)のみことばが、私の心に密かに囁いてくれ、神様からゴーサインが出たと感じ一步踏み出す事が出来ました。

その後、自分の弱さや、足りなさ、罪深さに嫌気がさし、献身なんてとんでもない事を決心してしまったのではないかと思うこともありました。でも神様はそんな私をみことばを通して励まして下さり、時には手を握って下さった感覚を通して忍耐強く導いて下さいました。

今年の新年聖会で、イエス様が、何度も失敗を繰り返したペテロを揺るがない岩にして下さったように「何度も失敗を繰り返すお前を岩にしてやる」と言っただけのを感じ、その

力強さに涙があふれました。

4月当初は、目まぐるしく過ぎて行く日々には恐れる暇がない感謝の日々でした。5月に入つて執拗な葛藤が起こつて来、ベソをかきましたが、そんな「情けない！」私に、やはり神様は、忍耐強く囁いて下さり、荒んだ心を癒して下さいました。「私に来よ。」と導いて下さいました。この神様を力を尽くし、思いを尽くして愛する事を願い、次の1か月も乗り越えさせて頂きたいと祈ります。

◆在校生の証し◆

愛されて 救われて

神学科四年 岡 恵美



今、示されて
御
言葉は「ま
た、神は地

を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。」(1コリント1:28)です。

「どうして私のですか。主を証しするどころか、悲しませることしかできないのに。」そう祈つた時、神様が私の心に触れてくださいました。「だからわたしがあなたのために十字架にかかり、最後の血一滴まで残らず注ぎだした。それはあなたがわたしの命に生きるためだよ。」二千年前に流されたイエス様の聖い愛の血潮が、今私の心にも注がれていることを知り、涙があふれました。

最終学年を迎えた今、イエス様の命に生かされている喜びをこれまで以上に感じています。永遠の滅びから永遠の栄光にあずからせる尊い素晴らしい働きをこの小さき者にゆだねてくださった主に感謝します。召してくださいました主を見上げ、祈りつつ学びと訓練に励みます。

神学科四年 森 昌実



(休学中のため、原稿はありません。)

の聖霊の働きでした。神学院で教えて下さる先生方、共に学んだ多くの神学生の皆さん、後援会の皆さんが私にとって見える形の火の柱、雲の柱です。「信仰

主イエスのレールの上に

神学科四年 長谷川 鐘大



旅をす
るとき必
要なのは
道です。し
かも正し

い道を辿らねばなりません。真理の道を知らず道から外れた盲人の私に、主イエス・キリストが会って下さいました。線路から外れて脱線した列車のように走っていた私を元の軌道に戻して下さいました。脱線の原因となった破損の箇所を修繕する思いで！神学院での学びをはじめ、早、最終学年となりました。学びを通して、私達が至聖所に至るには、主イエス・キリストの霊、聖霊に頼らなければならぬことを知りました。昔、荒野

を旅するイスラエルを導いた火の柱、雲の柱は私達に見える形の聖霊の働きでした。神学院で

の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。」(ヘブライ 12・2) 世界で一番喜ばしいお知らせ、この福音を人々に伝えていきたい熱い心を絶やさぬように祈ります。

捧げ抜くこと

神学科三年 堀部舜



【感謝】
近年の最大の変化は、子どもたちと

遊ぶのが楽しくなったことです。淀橋教会での聖日派遣を終え、住み慣れた温かい愛の交わりに感謝しています。私は回心以来、青年との交わりが主体でしたが、最近、年長の信仰の先輩たちの、地味でも堅実な信仰から、信仰の本質を学んでいます。

【反省】「サムエルの生きている間、主の手がペリシテ人を防いでいた」(サムエル 13 新改訳)。捧げ抜いた一人の信仰者が、主に尊ばれ、御手を動かし、どれほど大きな力となるかと思いま

す。捧げ抜く献身を失っていた自分に気づき、心砕かれて、捧げ直し、祈りを築き直しています。

【目標】卓越した神学者アルミニウスが、知的研鑽以上に、日々の生活に細心の注意を払ったように、①まず第一に、祈りと献身に励み、②その土台となる知的な理解を深め、③生活・実践の全体が整えられるようお祈りください。神学生の間でも、祈りと賛美の交わりが深まるよう願っています。

献身者の苦闘

神学科三年 黄雪琴



皆様の
お祈りに
支えられ
て、神学
院での学

びと献身者訓練も後半に入りました。今年の新年聖会と年会でのメッセージを通して大いに感動し、御言葉イザヤ書 41 章 14 節より「わたしはあなたを助ける」の御言葉から大変励まされました。しかし、日々の学びと訓練

は時々私にとって耐えられないほどきつかったです。

その中で、実家に戻り一時の休憩を取りました。私は綺麗な景色と家族のいたわりの中でそのまま時をゆつくり過ごしたい気持ちでしたが、御心が示され今いるべきところに戻りました。ここでの学びと訓練はとても有益で、私にとって大変大切な期間であることを教えられました。改めて感謝して日々の務めに今年も愛する仲間とともに励んでいきたいです。どうぞ、よろしくお願いします。

信徒献身者コース三年

文元 愛子



(休学中
のため、原
稿はありま
せん。)

圧倒的な神様の愛
神学科二年 下田 真行
一年間、多くの方のお祈りと神様の憐れみによって私のような



弱い者も、無事に二年生に進級することが許さ

れて感謝しています。この一年間を振り返ると、入学してからの三か月間は新しいことばかりで一か月が一年のように感じていました。それから待ったなし、怒涛の勢いで時間が過ぎていきました。私の学年は一人という事もあり、先生と二対一の授業となりとても贅沢でした。同級生がいない代わりに先生に牧会していただいているような貴重な時間でした。

先輩方は何もわからない私に優しく指導してくださいました。そんな中、自分の足りなさや周りを比較してしまい、こんな私は本当に神様のお役に立てるのだろうかと思ひ、祈り始めました。ある日、神様は私に「何もできなくてもあなたを愛している。」と語りかけて下さり、神様の圧倒的な愛を知りました。弱さや欠けだらけの私ですが、全て神様の愛で覆っていただき、

今年度も励んでまいります。

◆神学院

オリエンテーション◆

今年度は、4月4日の入学式、2名の新入生が与えられ、その翌日5日から3日間、八ヶ岳において学生6名(3名不参加)と教師6名で持たれました。EMバウンスの「祈りの必要」を用い、祈りについて更に深く学ぶ機会が与えられました。また、神学院生としての心得、寮生活等についてのガイダンスのときも持ちました。

学生、教師皆がそれぞれの献身の証しをし、その後、スモールグループに分かれての交わり(コイノニア)を持ちました。このことにより教師は、深く学生の現在の霊的状态を受け止めることができ、学生も教師のことをもっと深く知ることができました。

二日目、朝のセッションの後、清里ファームに向かい、ポール・ラッシュ記念館、清里聖アンデレ教会を訪問しました。ラッシュ氏は、聖公会の宣教師として来

日し、立教大学の教授も務られ、日本のアメリカン・フットボールの産みの親でもあります。第二次世界大戦中は一時アメリカに戻りますが、戦後GHQの将校として、日本に戻り、山梨県清里において、戦後日本の農村復興モデルを造り上げるために貢献した人であることを知りました。後に、聖路加国際病院建設のために募金活動を米国で展開しました。日本の戦後の復興のために、その生涯をささげてくださいました一人のクリスチャン、ポール・ラッシュ氏のことを知る良い機会が与えられました。



《献金のお願》

神学院では、毎年年会時における予約献金、神学院デー献金、また個人、団体献金に支えられ運営を続けておりますが、近年、学生数の減少化や、寮の老朽備品の交換等もあり、毎年、蓄えを切り崩している状態が続いております。教団の将来の伝道者育成機関である神学院運営のために、更に祈り、お献げいただければ感謝です。

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支えを心から感謝します。2017年3月に、2名の卒業生を送り出し、4月には2名の新入生が与えられ、新年度が始まりました。5月には神学院公開講座が開かれ、「教會的宣伝セミナー2017」との主題で豊かな時を過ごしました。神学院ホームページに映像が載せられていますので、ご興味のある方はぜひご覧

ください。近日中にスライドを通して、映像を見ながら、授業ができる環境となります。この環境づくりによって遠距離の講師の講義、また他教団神学院との交わりも深まることでしょう。またスカイプができる方々は、公開セミナー、公開授業も受講できるようになります。

今回の神学院便り第67号では、准教授の川崎豊師の巻頭言、去る3月に卒業し、教団の教師としての歩み始めた土屋宙靖師、丸山順子師の言葉、そして、新入生、柳泰鉉^{ユテヒョン}神学生、桑原晴美神学生の証し、在校生からの新年度に向けての抱負、オリエンテーション報告、そして、献金者一覧を掲載させていただきました。

神学生は、前期授業終了、試験の後、7月の関東夏期聖会より、夏期伝道期間に入ります。それぞれの霊性、健康が守られ、良き伝道実践の時となりますように、また、受け入れて下さる諸教会に主の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。